

第3回安城市総合交通会議

日時 平成22年3月18日(木)

午後2時から

場所 安城市文化センター 1階 講座室

1 議題

(1) 安城市総合交通計画について

○会長 随分たくさんの中身になっておりますが、御説明していただきました。それについて何か御質問、御意見はございますでしょうか。わかりにくい言葉も結構ありますが、いかがでしょうか。

○藤田 重点プロジェクトのことでお聞きしたいです。

17 ページに IC カード関係が出てまいりますが、名古屋鉄道が IC カードを入れられるということで、名鉄バスも同じ協議会に関係しておりますので、同時期に実施という形になるのですが、名鉄と公共駐輪場のシステムとか、そういう話はされているわけではないということではよろしいのでしょうか。

○事務局 まだ、今のところしておりません。今後話し合いをさせていただきたい。

○会長 バスとはやらないということですか。

○藤田 同じシステムなので、当然やっているのですが、実は、かなりハードルが高い部分があるものですから、その辺、よく御検討されることも必要かなとは思っています。

○会長 これはまだ、具体的に動いているということではないのですね。スケジュールからいって、来年度ですね。

○藤田 来年のある時点でという形になります。

○会長 ですから、システム的にやろうとするとかなり。

○藤田 我々の方は準備をかなり進めているのですが。

○会長 駐輪場の方が。

○藤田 そうです。例えば、JR 東海さんのやられているトイカがこの3月13日から、今までは在来線だけだったのですが、例えば駅に設置していらっしゃる自販機ですとかいう形になってきますので。名鉄でやろうとしているのも、一応こういう方向できているのですが、なかなかハードルが高いもので急にはいろいろなことが一遍に決まらないものですから、かなり時間がかかるのは否めない。

ただ、そこまでやるにしても、ある程度早い段階で準備に入っていないと時間がかかります。そこだけは承知していただいた方がいいです。

○事務局 26 ページでも、27 年、中長期のあたりで丸を打っています。すぐに導入できるとは私どもも考えておりませんし、この辺は調査研究が必要かなと思います。

○事務局 すみません、1点訂正をお願いしたいんですが。

26 ページに施策実施プログラムの案というのがございまして、先ほどのバスのところで交通空白地の検討を始めますということがございました。この中で、「公共交通機関のサービス・利便性向上」の

下二つになるのですが、デマンドバスと、その下の、カバーするデマンドタクシーの検討という欄が、32年度以降ということになっているのは間違いでして、すぐやっていく話ですので、この二つにつきましては「H22～H26」の方に移動させていただきたいと思います。

重点施策のときにも、空白地についてはすぐ話をしていくという話をさせていただいているものですから、これは間違いで、訂正をお願いします。

○会長 先ほどの IC の話というのは 35 年以降でしょう。バスの方の、今の IC カードの導入検討は 27 の方でやるということですね。JR さんが入ってきてルールまで決まっちゃうと、後から仕組みを入れるというのは随分しんどい話にならないですか。

○藤田 IC はいろいろな入れ方がありますが、最終的に JR 東海さんとシステムができ上がっているものです。名鉄グループでも、岐阜バスですとか、そこ自体だけでやっている IC カードはありますけれども、それとは全然違うものだと思っていただいた方がいいので。

例えば安城市様がいろいろなカード化にのっかろうとすると、いろいろ準備の期間がかなりかかるので、これだけうたってしまうと、本当にやれるのかというところが、市民さんの方で批判が起こる。それが実施されるということであればいいのかなと思うのですが、例えば、最終的にあんくるバスですとか鉄道もという話になると、またそれは話がかなり変わっていくものですから。

○会長 今のは、まだ少し中身が見えていない部分があると思いますので、情報をいただいて整理してほしいということ。

○片桐 重点プロジェクトの整理の 21、22 ページのところで質問させていただきます。

私ども、あんくるバスを運行させていただいております。通常の営業バスの運行をしている、新安城駅から企業バスの共同運行ということで、私どもの方で、新安城だけではなく、営業路線の各企業さんを訪問させていただいて、バスを保有されている企業様のところを営業路線に切りかえませんかということで営業させていただくわけです。

こちらの取り組み内容のところ、①②③④とステップがありまして、企業バス協議会といったものを立ち上げていくのに、このイメージは大体いつぐらいからかとか、全く白紙なのかどうか。

5～6 年前の情報で大変恐縮ですが、各企業さんはバスを保有して、いわゆる白バスで、1 種の大型免許をお持ちの従業員さんが朝夕そのバスを運転して、昼間はほかの仕事に入られるらしいです。

企業バス協議会を立ち上げて各企業さんと打ち合わせをするときに、公共性とかそういう部分である程度協力していただけるのか。もし安城市以外でこういうことをやっている地域があれば、そういう事例があって、進展した場合の有無を教えてくださいたいのですが。

○事務局 総合交通計画を作成する前の段階で、国の方から提案があったというイメージです。企業バス協議会というのは全く白紙でございまして、都市交通システムという国のイメージにいつもこういったイメージが載ってくるわけです。

企業バスでやれなくても、新安城に特化しちゃいますけれども、ああいった駅で、今現状広げられ

ない駅前広場をどうするかという問題点として挙げているんですが、特にいつ立ち上げようか、まだ決まっておりません。

○片桐 逆に、バス協議会というものを発足して実行している場合というのは、一企業の提案でやっていくのか、それとも市としての取り組みとして。企業に丸々委託していくパターンなのか、それとも市がロータリーを改修したり、各業者さんをいわゆる、あんくるバスの的に、公共的な部分での運行なのか、そこら辺のイメージはどちらに近いのでしょうか。

○事務局 企業にお願いすることになるかと思います。

○片桐 わかりました。

○長谷川 愛知県タクシー協会でございます。商売がたきの応援をしております、先回、NPO の件を取り上げていただくようにということで、早速取り上げていただきました。

施策実施プログラム案の 26 ページで、NPO 等によるボランティア有償運送の検討が、中期、長期の実実施計画のところ丸がついているのですが、この辺のところはいかがなものかなと思います。

実は、一昨日、安城市の主催で会議が行われまして、実際に 5 事業所と申しますか、二つの社会法人、三つの NPO が昨年度 1 年間に移動制約者の方々の把握をして、運行されている。安城市の中に移動制約を受けられる方が何名いるかということまで、はっきり資料の中に出ているわけでございますね。そんなような状況にあるものですから、これを 30 何年先からでやっておられると、現実動いている部分もありますので、おかしいのではないかとということで、丸の位置を移動していただけたらなという考えを強く持ちました。

○事務局 私どもがイメージしておるのは、確かに今やっていることは間違いないのが、「公共交通機関のサービス・利便性向上」の枠の中の、先ほど訂正をお願いしますと言ったデマンドバス、デマンドタクシー、こういったものと NPO 等によるという、一応これはセットで考えている。これ、実は、先ほどの話の中に大きく、あんくるバスの不便地域ございまして、こういったところの移動制約を受ける方を今後どうしようかということはずっと考えておりまして、これもおっしゃるとおり一つの考え方で、訂正させていただいて、22 年から当然検討していかなきゃならない。

○会長 今の長谷川さんの御指摘プラスアルファですけれども、バス、いわゆるあんくるバスの話が重点プロジェクトに入っていて、今のお話とか空白地域、デマンドバスなんていうのがプロジェクトに入っていないというのは、私は、逆に奇異に感じます。公共交通で市民の足を確保するという部分がそのとおりならば、同じようなプロジェクトの形に入っていないと思います。

○事務局 重点プロジェクトの 20 ページのイメージ図を見ていただくと、昨年 10 月 1 日にあんくるバスの路線を見直しさせていただいたときに、この方法も検討したわけです。空白地を埋めるためには、バスの駅をつくって、市街地の中は循環線がぐるぐる回ると、これでもないといけないことは明らかです。

たまたま今、バスの駅みたいな形のものをつくって、更生病院と JR 安城駅でやっている路線でいい

ますと、更生病院にあんくるバスが3台も4台と並んでしまうという現状がございまして、もっと別のところでやらなければ実現できないことがはっきりしています。ですから、これはバスの利用促進策として長期の方に出させてもらったのですが、先ほど言いましたNPOもデマンドも、このバスの駅、空白地の対策というのが一番大きなところでございます。

○会長 集落の連絡バスというイメージが少しわかりにくいのですが、ここでいうデマンドバスだとか乗り合いタクシーとか、そんなイメージも含めてあるのかなと私はとっていたので、そうすると、同じスタンスで検討するようなことにしておいていただいたらいいのではないかと。そういうふうに思えばいい訳ですね。

○事務局 空白地の話を、土俵を全部変えて載せていますので、一つにまとめた方がわかりやすい。

○会長 そうですね。わかりやすいのではないかと。

○宮崎（代理） 愛知県でも、環境にやさしい交通行動、エコモビリティライフということで推進しているわけですが、今回の計画を拝見すると、安城市内で市民の方に環境にやさしい交通行動をとるいろいろなハード的な整備が、この重点プロジェクトをきっかけに進んでいこうと思えます。ハード的にはこういういろいろな施策をやられているということですが、自転車にしても、鉄道にしても、あんくるバスにしても、実際に市民の方に使ってもらうように意識改革をしていかなきゃいけないということで、その他の施策でモビリティマネジメントというのが掲げられているわけですが、モビリティマネジメントは市民にとっては非常にわかりづらいですよ。一くくりに「モビリティマネジメント」と言うのは簡単ですが、例えばこの中には学校の生徒さんに対するバスの乗り方教室であったり、きめ細かなものがやっぱりないといけません。

今後の話ではあると思うが、こういう立派なハード面を市民の方に使っていただけるように、ソフト面もこの計画に、同じぐらいの両輪で位置づけていただきたいというのが一つ目のお願いです。

もう一つ、調査物としては、こういうことをやってということで、表だとか文字を非常にうまく使っているのですが、私が安城市民だったら、プロジェクトマップとまではいなくても、もう少し視覚に訴えるようなものがあるとわかりやすいのかなということを感じました。

例えば、21ページのイメージ図、連携イメージとかいうのは視覚的にもいいのかなと思うが、これを拝見すると、鉄道とコミュニティバスと自家用車、自転車ということで、いろいろな交通モードが掲げられている。しかし路線バスとかそこら辺の位置づけ。あんくるバスと路線バスとのすみ分けとか、長距離は鉄道であり、その次は路線バス、それからコミュニティバス、自転車といった、末端の交通に近づくにつれてちょっと細かくなっていくという、交通手段のすみ分けというのが出てくるのではないと思うのですが、この計画での路線バスの位置づけみたいなものがどういうふうになっているかをお聞かせいただければと思います。

○事務局 モビリティマネジメントで視覚的にという話は、おっしゃるとおりでございます。ここは、具体的な施策という意味では考えさせていただきます。

策定方針の21ページのイメージ、ここで路線バスが入っていないということになるが、路線バスを軽視して落としたわけではございません。私ども、名鉄さんをお願いしまして、新安城一更生病院さんと、東岡崎の岡崎線、赤字経営でございますので大変ですが、安城市のツールとしては大変大事な路線でございます。そういった意味で、これ自体もお願いして、このイメージ図に載せる方向でやらせていただきたいと思います。

○会長 もう一つのモビリティマネジメントについては、何か御発言はありますか。

○事務局 国の方でもいろいろな事例がありますし、先進都市でも結構たくさんこれに関してはやってございますので、そういった事例を載せていくというか、考えさせていただきます。

○会長 今日デンソーさんはお休みですけれども、ぜひデンソーさんにも出された方がいいと思います。デンソーさんはとくに企業でおやりになっている。

愛知県内で、企業サイドで自主的におやりになっているところが結構ありますし、交通事業者さんに対応しながらやった事例だとか、行政が中心になってやった場合、いろいろなやり方があるって、どんどん動いてきています。

重点プロジェクトというメリットを挙げていただいて、ここの仕組みをもうちょっとうまいこと、安城方式みたいなものができる一番いいのであろうなという感じがしております。これだと、ここだけが事例というかイメージがないですね。だから、今、御指摘いただいたと思います。やっぱりちょっとイメージがあった方がわかりやすいという御指摘だと思うので、ぜひ。

○事務局 デンソーさんのやってみえるのは、デコポンの。

○会長 はい。結構早いですよ、あそこは。ITS だとかいろいろなものを組み合わせてみえます。そういう意味では、企業としてはかなり先進的ですし、せっかく地元がいい企業があるので、ぜひそれを含めて検討していただきたい。

○事務局 確かに隣の刈谷市さんの本社は、キーマンがいらっしやいまして、ものすごくやってみえます。ちょっとだけ聞いたのですが、ここだけの話にしておいていただきたんですが、安城製作所では、交通に関してはあまり進んでいないという。

○会長 基本的には、今のエコモビの関係、環境問題を考慮したという、どうしてもモビリティマネジメント的な施策が多いわけですね。だから、そこらあたりも含めて入れておいていただければ。

先ほどの企業バスの共同運行なんていうのは、モビリティマネジメントと言うと随分範疇が広いので、イメージがしにくいのかもかもしれません。

先ほどの御指摘は、これは市がちゃんとやるということですよ。「モビリティマネジメント」としか書いてないですけど、働きかけだとかツールづくりとか主要事業所との話し合いの場の設定と書いてあるのは、行政としてやりますよということですよ。

ちょっと気になるのが、ここに書いてあることを誰がやるのという部分が少し見えない。共同運行するのは、先ほど御指摘あったように、企業さんに共同運行していただくのであって、市はその働

きかけだとかいろいろな話をここへ持ち込みましょうということだろうと思うので。四角のところだけ見てしまうと、どういうことか、誰がやるのかというイメージが。要は、働きかけをするという場の設定とかツールづくりというのと、共同運行とか言葉がわかりにくい。行政の役割というのが下に書いてあるので、これはモビリティマネジメントを説明しているのか、何をやろうと、誰がやるのかという話が下に書いてあるのか、ちょっとここの整理が必要かな。

○事務局 私も気がついたのですが、各施策が挙げてあって、行政が行う役割ということしか書いてないですから、多分違うと思います。市民の方の役割、企業の役割とかを明確にしないと、これはちょっと。

○会長 何をやるか、私たちはどこにいるのかというのがわかりにくい。交通事業者さんはどこにいるのか、市民はどこにいるのかというようなところをちょっと整理されたら、ここの部分はわかりやすくなるのではないかな。それが多分、片桐さんが御指摘されたところですよ。

○藤田 特にこれに対する意見じゃないですけども、名鉄バスで、先ほどの IC のほかに、バスロケを岡崎方面でやるということで計画しておりまして、多分、あんくるバスさんに載せられるシステムとはちょっと違うだろうと思いますので。例えば安城駅での表示ですとかそういうものについて、事例ということで書いてあるのですが、ちょっとその辺は打ち合わせというか、お互いに情報を提供しようかなということをございまして、その辺だけ別途御相談させていただければ。

○会長 ぜひお願いします。ここへ書くか書かないかは別として、今の名鉄さんからの御提言はぜひお願いしたいと思います。

○事務局 公共交通の情報として、同じ情報でない。今はできなくても、将来。

○会長 いや、もう来年やるでしょ。岡崎がやっちゃうから、多分、岡崎からの安城とか、あれはもう入ると思います。入ってきますよね。だから、チェックしておいてください。

○事務局 うちのバスロケは既に試験運転をやっているのですが、予算の関係で、あまり立派なものではないです。時刻表ですとか、今このバス停を出たよと、その程度。

○会長 そんなに変わらないと思います。あまり高度なものを入れても意味がないので。

○事務局 豊田さんみたいに、バスが動いているような。

○会長 そんなところまでは無理です。

○事務局 今、主流は携帯で見る。路線によって違いますが、携帯で「今、このバス停を何分遅れで発車したよ」とかいう情報でございまして。

○会長 地元の皆さん、見られたことありますか。そんなの、初めて聞いたよねという話です。

○事務局 実際には、調子というか内容を見ているものですから、4月1日号の広報に載せさせていただこうと思っています。

○会長 ぜひ一回使ってみてください。

○事務局 ただ、携帯でアクセスしていただくとお金がかかるので、あまり長い間見ていると大変な

ことになります。

○会長 お試し期間というのはないのですか。

○事務局 利用料というか、それをどうこうするというお金は出ませんが、通信料はかかりますから。

○鳥居 いろいろな施策がエリア別といますか、集落だとか中心市街地というふうに整理されているものですから、既存の駅の話ばかりになってしまいます。結節点とかいう話に。

例えば総合運動公園みたいな利用者の多い施設は、どこにも引っかかってきません。あれはどうするという話がないとおかしいと思う。

○事務局 総合運動公園へのアクセスの話ですか。

○鳥居 そう。あれだけの利用者がある施設に、名鉄バスさんは確かに通っておられるけど、これもという話もあったりしたら、完全にお手上げになる。そういうのが心配なので、そういう施設についても何らかの形で入れておいていただいた方がいいように思います。

○事務局 各支所ですとか、集まるところはバスが通ったりしています。確かに総合運動公園へ行く方法は今、車と名鉄さんしかないわけですが。

○鳥居 簡単に言うと、鉄道をとめろ。駅ができるかできないか。一番簡単なのは、北安城の駅を持っていく。市民感情として、皆さんが許してくれるかどうかという話がありますが、検討対象には入れておくべきだと思う。あんくるバスでは、とてもではないが処理できない。

○事務局 そこら辺は検討させていただきます。

○鳥居 企業バスの共同運行というのが出ていましたけど、企業バスは、運転手が専門ではなくて、昼間は別の仕事をやっているというようなレベルの話です。人の問題をどうするかという御指摘がありました。もう一つ別の話として、駅は確かに自由空間ですけど、企業バスは全部そのゲートを通して企業の中に入ってしまう。だから非常に厄介です。簡単にできる話ではない。

○会長 今のは御意見、御指摘だと思います。いわゆる工業団地だとか企業が幾つか立地されているところで共同運行するとかいうイメージのものでしょうか。条件によって随分変わると思うので、ぜひそこらあたりはイメージをもう少し整理しておいていただいた方がいいのかなと思います。大きな工場ですと多分、門のところじゃなくて、中までずっと入っていかれるというイメージですよ。

市民代表の方、何かございますか。市民生活に直結する話がいっぱいですが、こんなのはどういうイメージだとか、疑問点でも結構ですし、いかがでしょうか。

○中根 レンタサイクルというのをやっていると思います。皆さんが利用しているのかどうか、私はよくわからないのですが。これはどういう利用の仕方を皆さんがなさっているのか、これは必要のかなと思って、お聞きしたいと思います。

○事務局 レンタサイクルは、今、市内に10カ所ございまして、平成21年度でいいますと、年間4,700人から4,800人の方に御利用いただいております。この使い方の多くは、平日、安城市に仕事にこられる方が多くて、私どもの評価としては、これだけ車が入っていないと評価させていただいております。

す。当初、始めたころはもっと少なく、年間1,800人だったのが、500~600人ずつ増えて、今4,800人です。

一番多いのは、当然のことながらJR安城駅ですが、20年21年では新安城からJR安城駅という使われ方が多い。南安城も始めたので、南安城も使われ方が多くて、私どものレンタサイクルは、ポート間ならどこへ置いてもいいということをやっていますので、途中で自転車がなくなってしまうという状況です。来年も結構伸びてくれるかなとは思っています。

どこのポートで返してもいいというのは、例えばJR安城駅から市役所で置いてくださっても結構ですが、偏るものですから、毎週月曜日に各ポートへ返すのですが、日中に自転車がなくなってしまう箇所もあるものですから、職員がまた戻すということをしています。

○兵藤 その自転車は、リサイクルした自転車ですか、それとも新しい自転車ですか。

○事務局 一部は新車が入っています。57台のうち12台が新車です。

○兵藤 乗り捨て自転車が随分放置されているのが、最終的には処理されるのはもったいない。リサイクルして使ってもらえれば。

○事務局 45台はリサイクル自転車でございますけれども、リサイクル自転車も、市民の方にお分けするのが優先ですので、なかなか私どもの方には回ってこない。今年度は、放置で使える自転車があまりなかったのです。今まではずっとリサイクル自転車を使っています、リサイクルは結構壊れて、修理費がかかるものですから、新しいのを入れてみようという形で新車を入れてみたのですが、やっぱり盗られるという心配もあるものですから、できるだけリサイクル自転車ということを考えています。まずは市民の方に販売という目的があるものですから、それで余った分で新しいのに更新していくということを考えております。

○兵藤 貸し出された自転車がなくなるということは。

○事務局 全部行き先はわかるの、返していただけないものですから。自分のアパートの駐輪場にずっと停められてしまうというのもありますけど、全部、どこかへ行っちゃった自転車が返ってこないわけではないです。

よくわかるものですから、利用者の方が「あそこにいつまでもほかってあるよ」とか、ほかの市の方から御連絡をいただくものですから、それを取りに伺うというのは何回かありました。一番遠いところでは、名古屋の天白にあったこともありました。

○宮松 駅から自転車に乗って行って市役所へ置くときは、どなたかに「ここへ置いておきます」と言うのか、ただ置いておけばいいんですか。

○事務局 受付に鍵を返してもらいます。

○宮松 各所に受付があるわけですね。

○事務局 はい。

○宮崎(代理) 私、実は今日、JR安城駅からここまでレンタサイクルで来ました。駅で降りてすぐ、

安城市の新しい駐輪場ができているんですけど、その中に受付があって、本当に1分ぐらいで手続を済ませて鍵をお借りして、ここまで乗ってきました。非常に快適で、ぜひ市民の人にも使っていただけるといいかなと。

いろいろな人が乗っていると、市民の人に、安城市はレンタサイクルをやっているとか、自転車が盛んだなというのがわかると思います。会議のとき、私はここまで自転車で来ますし、市民の方も使っていただけるといいかなと思います。

○会長 使ってみるといいですね。ぜひよろしくお願いします。そういうのは随分大切だと思います。

あんくるバスもみんな結構乗っていただけるようになったのですが、あれも最初はなかなか乗っていただけなかった。乗ってみて、バスとか電車も意外と動けるといのがわかってくと、少し。ぜひ一度お使いくださいとしか言いようがないですね。

○長崎 交通マップをおつくりになると伺っています。あんくるバスの時刻表の中にマップが入っているわけですが、あんくるバスだけではなくて、これは鉄道も名鉄バスさんも路線としては入っているわけですが、時刻表が入ってないんですね。

先ほどの総合運動公園の話もあるわけですがけれども、乗り継ぎというときに、これでは全然わからないということもあります。したがって、鉄道も含めて、市内にかかわる部分の時刻を挙げていただいて、乗り継いでいく時間については特に特記をしていただくような工夫をしていただくと、公共交通がネット化してうまく使われるかなと思いますので、そういう工夫をひとつぜひともお願いしたいということでございます。

○事務局 モビリティマネジメントの中で交通マップというのを出させていただいているのですが、イメージ的には、今おっしゃられたようなものを考えていきたいと思います。

○小林(代理) モビリティマネジメントの中でいつも話が出てくるのは、市は強制するばかりで何をやるのかという話が市民の方から出たりして、その辺の記載がないと、役割の中に何らか、公共交通の日なのかかわからないですが、ノーマイカーデーというようなことをやるだとかやっているだとかいうことを書かないと、訴えるだけのものがないのかなと思うので。

運輸局はお城の真横にあって、駐車場がなくて、全員が地下鉄なりバスで通わなければいけないというところにある。私が今いるところは、中川区の運輸支局といって車検場ですから、駐車場は膨大にあります。何だかんだ言っても、車の方がやっぱり便利ですから、車で通う人が多いわけですがけれども、その中でも、月1回だけですがノーマイカーデーというのを、車で来ない日を設定していますので、そういうことも訴えていく必要があるのかなと思います。

○会長 大変いい御指摘。ここの中に行政も、役所も入るのでしょうかね。

○小林(代理) 入れなければいけないです。

○事務局 実際、安城市もノーカーデーを設けていますし、「サイクル」という文字になぞらえまして、

3日と19日がサイクルデーという形で、自転車で通おうということをやっております。御報告できるような、何%というすごい数字ではありませんが、一応そういうのをやっております。

○会長 モビリティマネジメントの部分、おっしゃっていただいたように、今取り組んでいる、または地元の企業さんが取り組んでおられることとかを御紹介しながらでしょうから、プロジェクトとしては、少し事例を入れていただく、イメージを入れていただくとしても、展開していただくときには、実際には今おっしゃったような話を十分いろいろな形で施策展開をしていただくといいですね。ぜひお願いいたします。

大変いろいろな有益な御意見をいただきましたので、最終的には「総合交通計画」という形に、1冊にまとめさせていただこうと思っております。本来、今日、まとめたものがぱっと出てくるのが一番いいわけですが、時間的な制約もあって、そこまではしておりませんが、今後、今まで議論していただいた部分を私と事務局で整理させていただいて1冊にまとめて、計画案という形にさせていただこうと思っております。それがまとまった段階で、委員の皆さんに送らせていただきます。そこで御意見をもう一度いただくことをお願いしたいと思います。

1冊にまとめたものをお送りいたしますので、若干期限を切らせていただくかもしれませんが、それで御意見をいただいて、最終案をまとめていくという作業にしたいと思います。今私が申し上げたことで何かございましたら。手間暇かけるなあという話があるかもしれませんが、大変申しわけありませんけれども、1冊にまとめる作業がありますので、この後お送りいたしますので、御意見いただいて、最終案を整理させていただきます。そこまでの作業は私と事務局でしますので、御一任いただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。ちょっと時間をいただいてそういう形にしたいと思いますので、お願いしたいと思います。

○事務局 貴重な御意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。

会長がおっしゃられましたように、なるべく早くまとめて、市民への公表の前には配付させていただきますので、よろしくお願いしたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

以上